

第3学年特別活動学習指導案

日 時	令和7年1月28日(火) 第5校時 13:20~14:10
学校名	渋谷区立笹塚中学校
対 象	第3学年2組
会 場	3階3年2組教室
授業者	教諭 城 直毅

(1) **題材名** 友達が被害者になったら(令和6年度人権教育プログラム)

(2) 題材のねらい

犯罪被害者やその家族の現状と心情を理解し、望ましいかかわり方を考えることを通して、集団の一員として自覚と責任をもち、よりよい人間関係を築くことができるようにする。

(3) 評価規準

ア よりよい生活を築くための
知 識 ・ 技 能

犯罪被害者やその家族が何を望んでいるのかを知り、思いやりをもって人間関係を築くことの大切さや実践の仕方を理解し、よりよい人間関係を築くために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。

イ 集団や社会の形成者としての
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現

他の人を思いやり、集団や社会の中でよりよい人間関係を築くことを考え、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。

ウ 主体的に生活や人間関係を
よりよくしようとする態度

犯罪被害者やその家族に関わる現状等について関心を持ち、どのように関わればよいのか考え、よりよい人間関係を築こうとしている。

(4) 題材設定の理由

生徒は、家庭や地域における人間関係、学校における生徒間等の多様な人間関係の中で生きている。一人一人の意見や意思は多様であることを知り、ときには葛藤や対立を経験する。これら様々な人間関係について振り返らせ、自己の課題を見だし、課題解決に向けた具体的な方法などについて話し合い、その中で共有化された解決の方向性等を参考にして自分としての解決方法等を意思決定させる。そして、決めたことを実践しながら円滑な人間関係に資するよう指導することが大切である。

本題材では、動画やワークブックの資料を活用しながら、「友達が被害者になったら」という具体的な場面を取り上げ、犯罪被害者やその家族の現状や心情を理解させるとともに、自分ができることは何かについて考えさせる。犯罪被害者やその家族がしてほしいと思っていることはそれぞれで同じではないが、身近にそうした人がいたときの自分の役割を考えさせることを通して、犯罪被害者への理解を深め、人に寄り添うことの意味とその大切さを実感できるようにする。このような学習を通して、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする態度を育てるため、本題材を設定した。

(5) 生徒の実態

犯罪に関わる情報については、テレビや SNS のニュースで知っている。しかし、犯罪に遭った方たちの気持ちを想像したり、考えたりすることは容易ではないと考える。学校生活の中では、友達が困っている場面を見かけたら、すすんで声をかけたり、助けようとしたりする姿が多くみられるため、仲間のことを大切にしようとする気持ちは強い。一方で、広げる必要のない情報なども、噂のように広めてしまうこともあるため、自分の言動が、相手にどう受け止められるかをよく考えるよう指導している。

(6) 人権教育の視点

犯罪被害者やその家族への関わり方を考えることを通して、周囲の心ないうわさや中傷、偏見がもたらす人権上の問題を具体的に理解させるとともに、他の人の気持ちを尊重して行動しようとする態度を育てる。

(7) 本時の指導

	○学習活動 ・予想される生徒の反応	・人権教育に関わる留意点等 ◆評価
導入	○ 「友達が被害者になったら (ワークブック)」 〔資料1〕の p. 1 「はじめに」を活用し、犯罪被害について確認する。	・ 交通事故や犯罪被害の発生状況などを知り、誰にでも起こり得る問題であることを理解させる。
展開	○ 「友達が被害者になったら (動画)」〔資料2〕を視聴する。 ○ 〔資料1〕の p. 2 「もし、周囲に被害者がいたら…」を用いて、クラスメイトから励まされた「さやか」が、なぜ教室から走り去ってしまったのか考え、記入する。 ・ クラスメイトの励ましがかえってプレッシャーになってしまったから。 ○ 〔資料1〕の p. 8 「被害者はどんな気持ちでいるんだろう」を用いて、しばらく学校を休んでいる「さやか」の気持ちや状態を自分のことに置き換えて考え、記入する。 ・ すごく孤独を感じて、誰も自分の気持ちを理解してくれないのではないかと思っている。	・ 犯罪被害にあった生徒がいる場合などを踏まえ、学級の生徒の家庭状況等に十分配慮する。 ・ 交通事故によって大切な家族を失った「さやか」や家族の気持ちを考えることを通して、犯罪被害者やその家族の状況を理解させる。 ・ 被害者は周囲の無神経な対応によってさらに傷付いたり、生活が一変してしまったりすることを理解させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">被害者の気持ちに配慮した対応を考えよう</div>	・ 〔資料1〕の p. 13 「被害者は何をしてほしいと思っているんだろう」、p. 14 「被害者がしてほしいと思っていること」や「犯罪被害者やその家族に必要なのは、みなさんの理解と支援です」〔資料3〕を活用し、具体的な声かけなどを考えさせる。 ・ 被害者の気持ちは、皆一様ではないことに気付かせる。 ・ 犯罪被害者に寄り添う姿勢や態度は学級集団において、よりよい人間関係を築く上でも大切であることに気付かせる。 ◆ 犯罪被害者やその家族への対応の仕方を理解することができる。【ア 知・技】
終末	○ 今回の学習を通して学んだことをどのように生かすことができるかを考える。 ・ 何気ない言葉でも、相手にとっては重い意味をもつことがあるので、言葉を選んで話すようにしたい。	・ よりよい人間関係を築くことの大切さについて確認し、実践への意欲を高めさせる。 ◆ 本時の学習を踏まえて、よりよい人間関係を築こうとしている。【ウ 主】